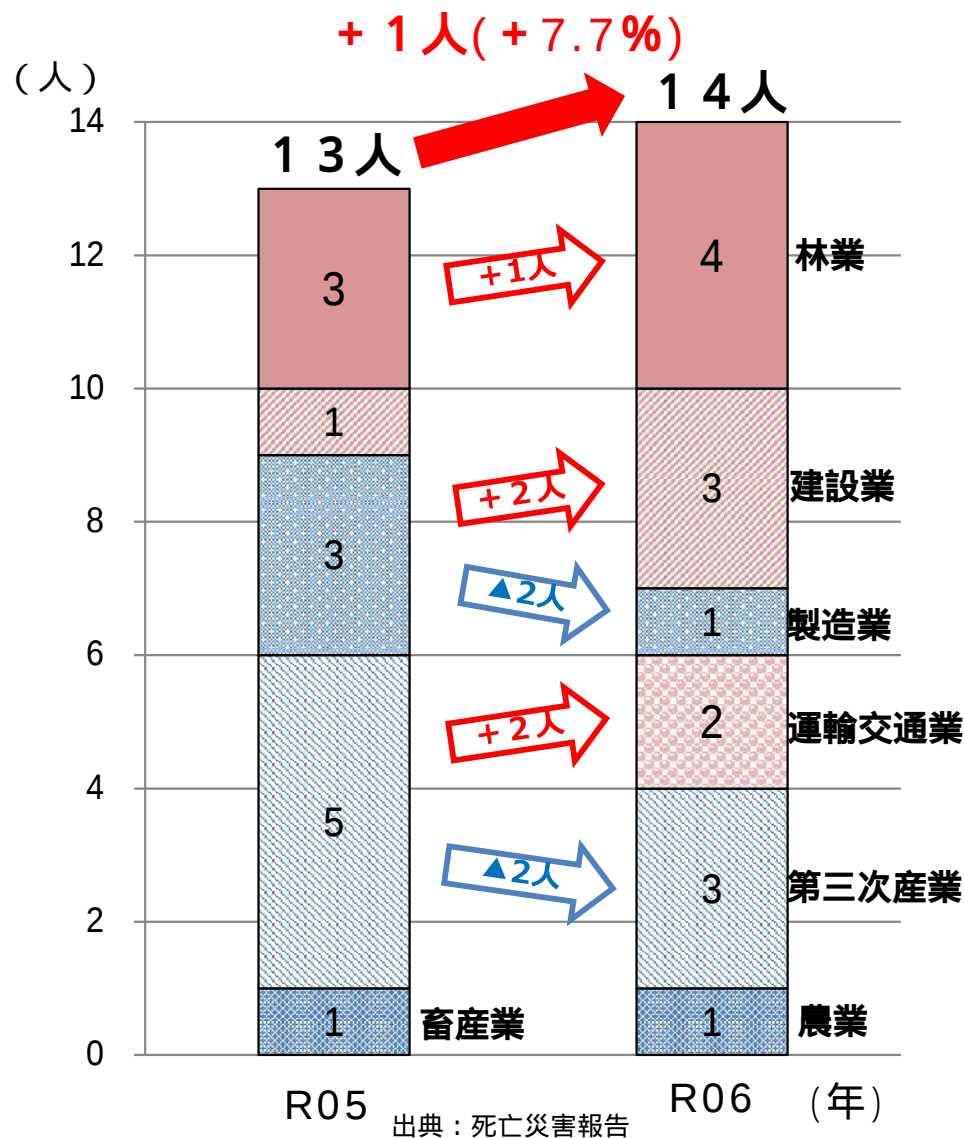


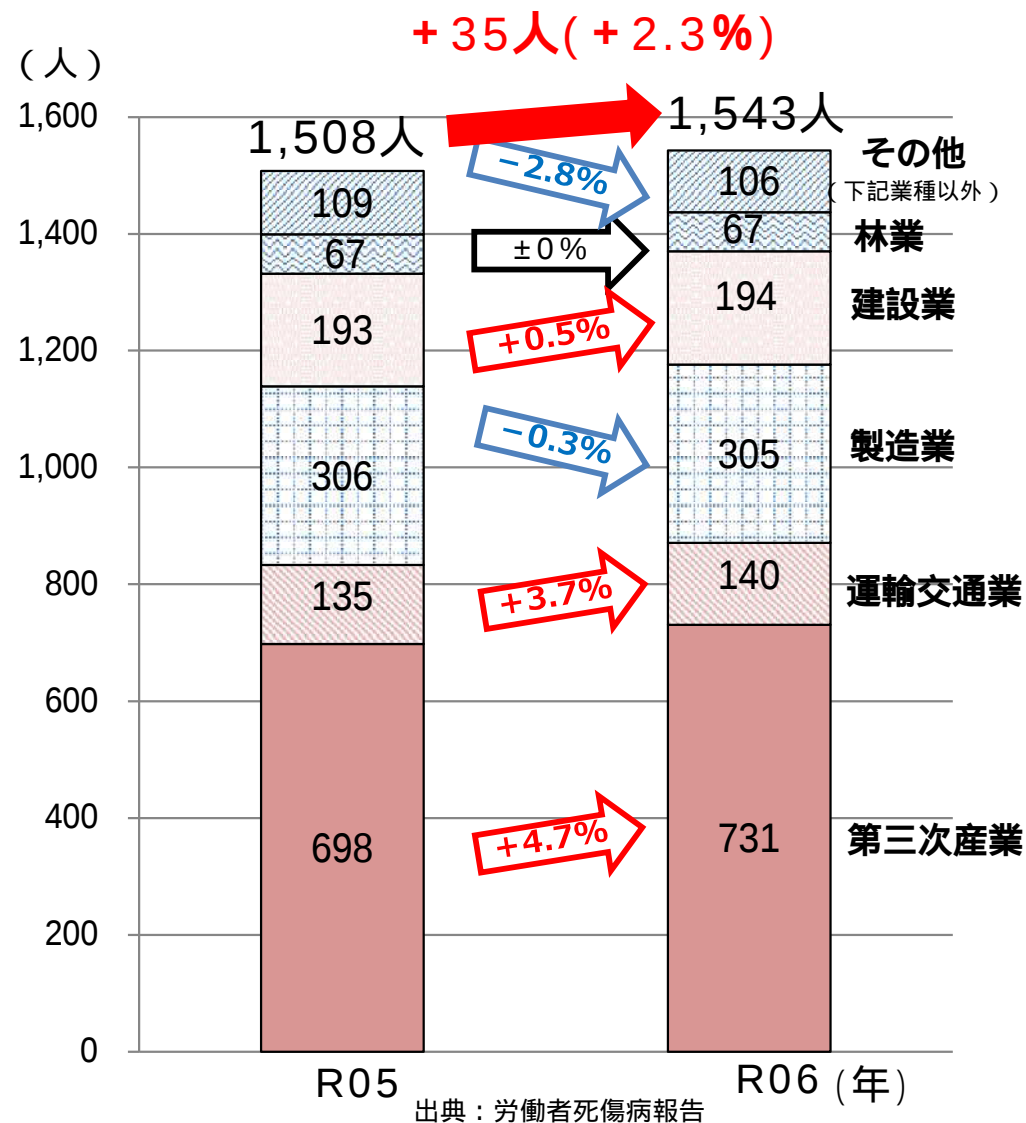
令和6年 県内 業種別労働災害発生状況（概要）

令和6年1月1日から令和6年12月31日までに発生した災害について、令和7年4月7日までの報告を集計したもの
 （新型コロナウイルス感染症り患を除く）

死亡災害



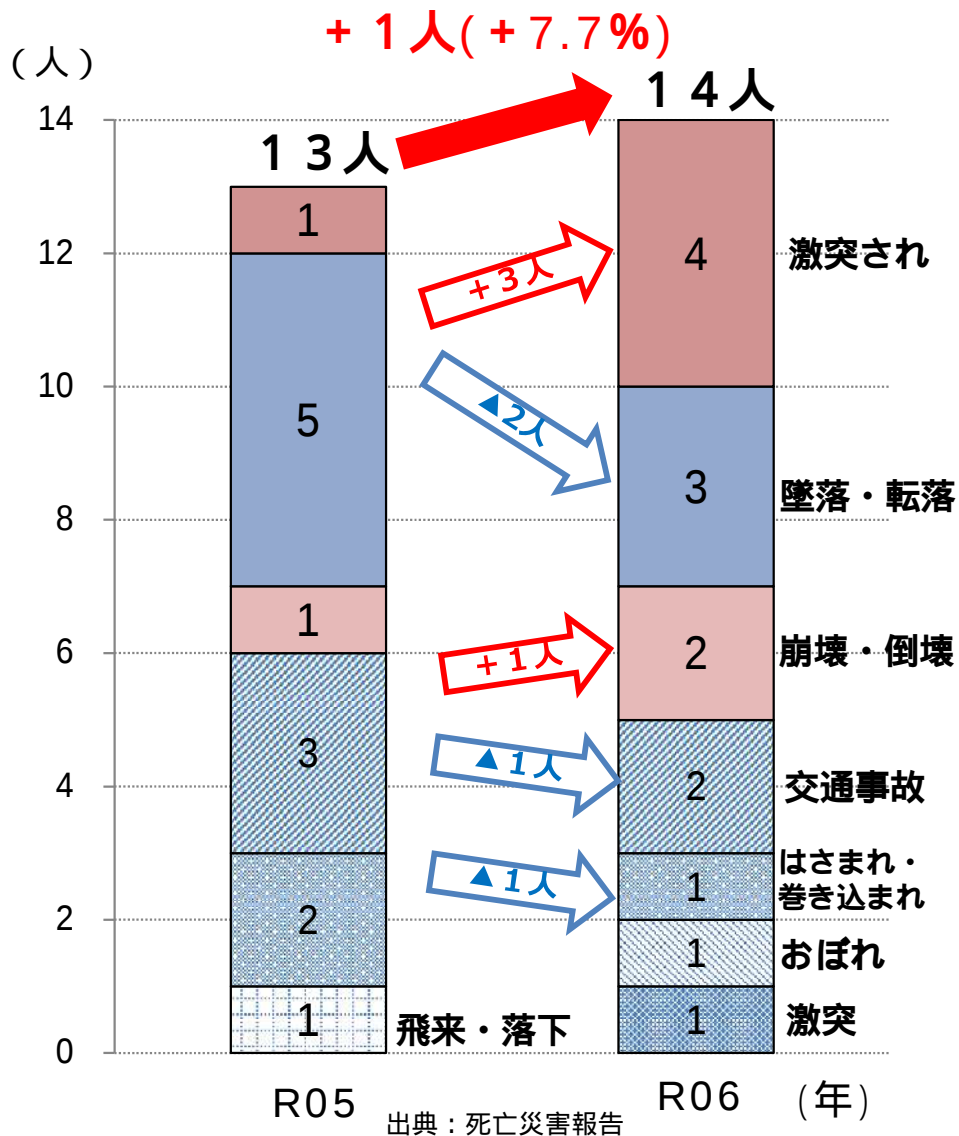
休業4日以上の死傷災害



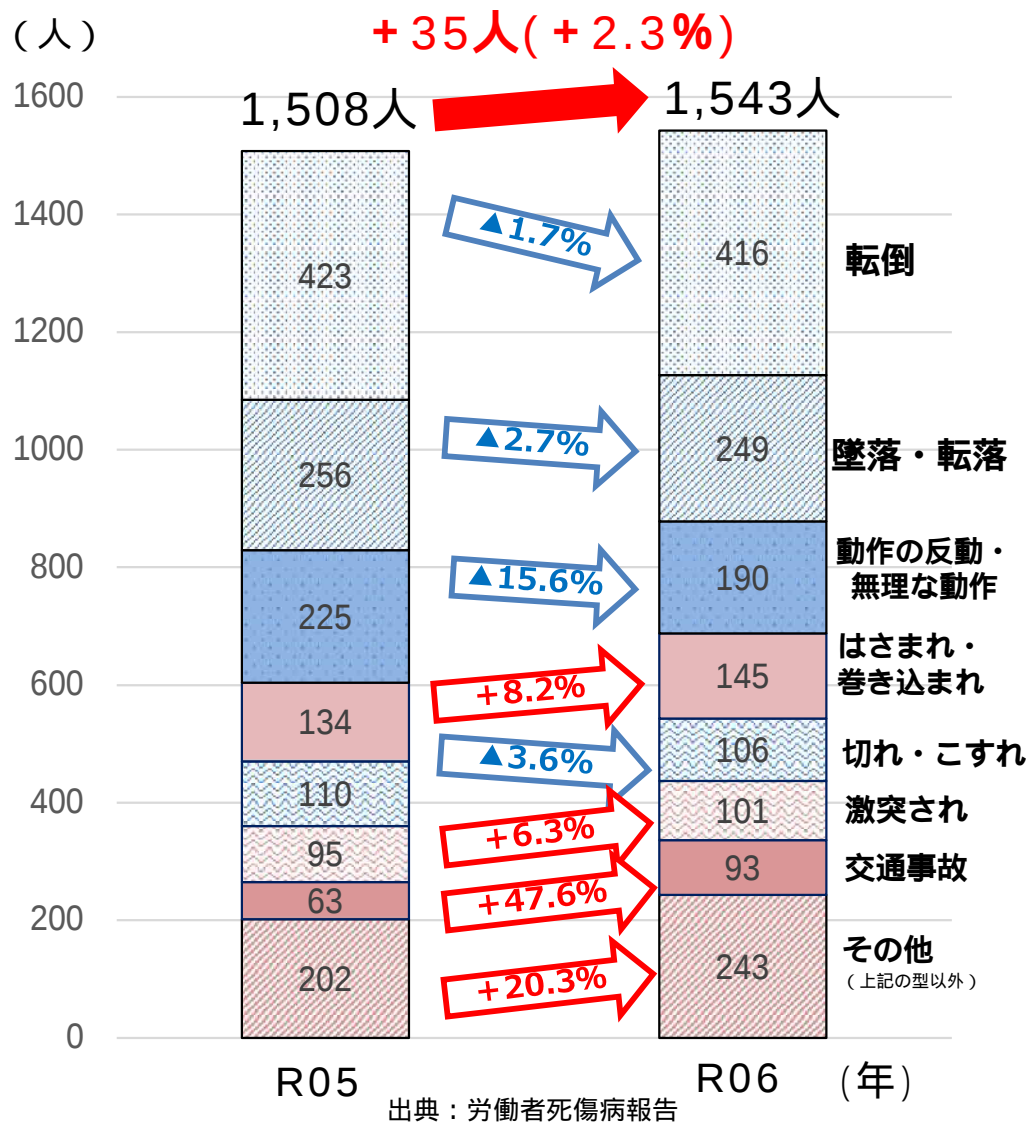
令和6年 県内 事故の型別労働災害発生状況（概要）

令和6年1月1日から令和6年12月31日までに発生した災害について、令和7年4月7日までの報告を集計したもの
 （新型コロナウイルス感染症り患を除く）

死亡災害



休業4日以上之死傷災害



令和 6 年 県内労働災害発生状況分析結果

1．死亡災害発生状況について

- (1) 死亡災害発生状況の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 事故の型別 死亡災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 起因物別 死亡災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (4) 年齢別 死亡災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 2

2．死傷災害（死亡・休業 4 日以上）発生状況について

- (1) 死傷災害発生状況の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 事故の型別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 傷病性質別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (4) 起因物別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (5) 経験期間別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (6) 年齢層別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (7) 休業見込期間別 労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・ 6
- (8) 事故発生回数別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・ 7
- (9) 男女別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 7

3．業種別の労働災害の特徴について

- (1) 建設業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (2) 林業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (3) 製造業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (4) 運輸交通業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (5) 第三次産業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・ 10

4．最近の労働災害の特徴について

- (1) 行動災害の増加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (2) 高年齢労働者の労働災害の増加・・・・・・・・・・・・・・ 13

5．外国人労働者の災害発生状況

- (1) 外国人労働者の労働災害発生状況の推移・・・・・・・・・・ 14

令和6年県内労働災害発生状況分析結果

1. 死亡災害発生状況について（新型コロナウイルス感染症への罹患を除く）

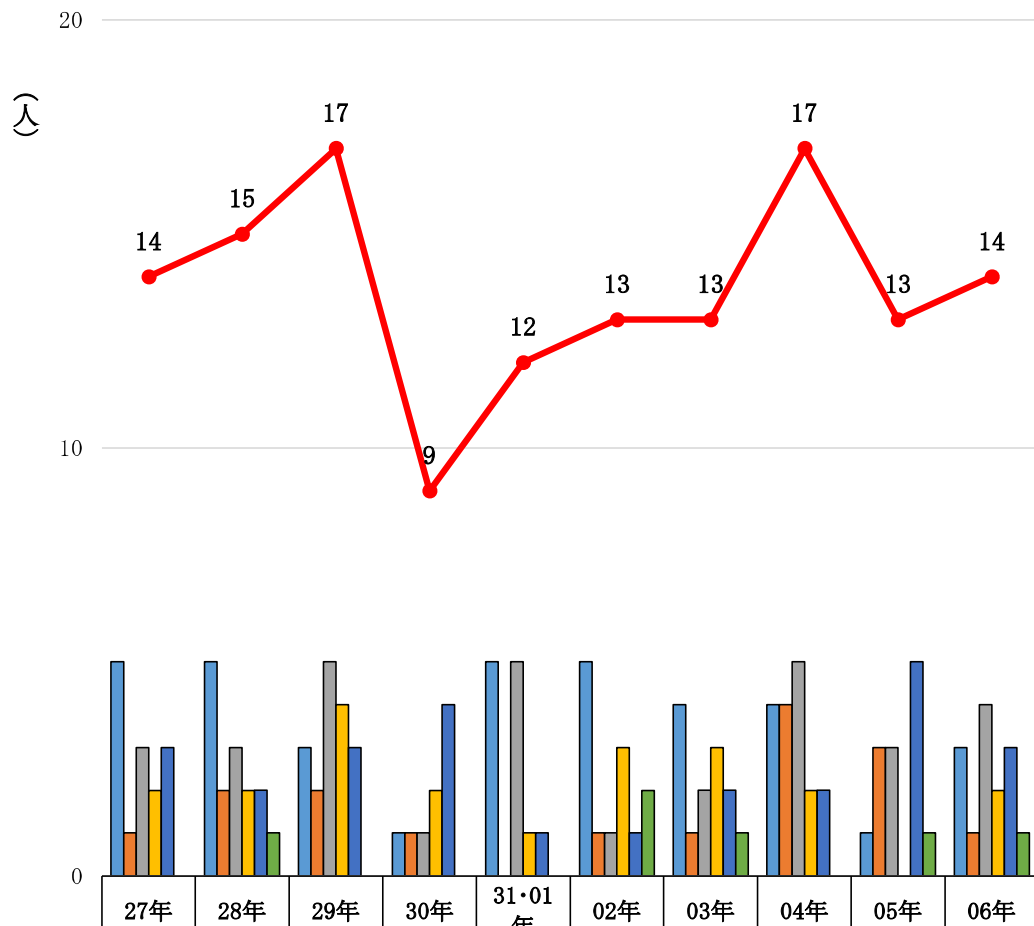
（1）死亡災害発生状況の推移

令和6年の労働災害による死亡者数は14人で、前年より1人増加。

業種別では、林業4人、建設業と第三次産業でそれぞれ3人、運輸交通業で2人、製造業と農業でそれぞれ1人となっている。

前年との比較では、建設業と運輸交通業でそれぞれ2人増加、林業と農業でそれぞれ1人増加、製造業と第三次産業でそれぞれ2人減少、畜産業で1人減少した。

全産業及び主要産業の死亡者数



	27年	28年	29年	30年	31・01年	02年	03年	04年	05年	06年
建設業	5	5	3	1	5	5	4	4	1	3
製造業	1	2	2	1	0	1	1	4	3	1
林業	3	3	5	1	5	1	2	5	3	4
運輸交通業	2	2	4	2	1	3	3	2	0	2
第三次産業	3	2	3	4	1	1	2	2	5	3
上記以外の業種	0	1	0	0	0	2	1	0	1	1
全産業	14	15	17	9	12	13	13	17	13	14

(2) 事故の型別 死亡災害発生状況（令和6年）

令和6年に発生した死亡災害のうち、「激突され」によるものが4人（28.6%）で最も多く、次いで「墜落・転落」によるものが3人（21.4%）、「崩壊・倒壊」と「交通事故」がそれぞれ2人（14.3%）と続く。



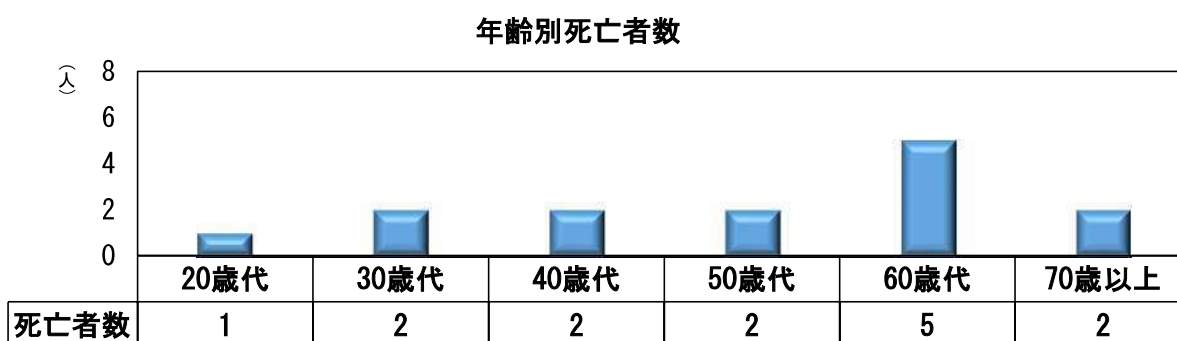
(3) 起因物別 死亡災害発生状況（令和6年）

起因物（災害をもたらす原因となった機械、設備、環境等）別では、立木や地山、岩石等の「環境等」が6人（42.9%）で最も多く、次いでトラック等の「動力運搬機械」と屋根等の「仮設物・構築物等」がそれぞれ2人（14.3%）と続く。



(4) 年齢別 死亡災害発生状況（令和6年）

年齢別では「60歳以上」が7人で、全体の半数を占める。



2. 死傷災害（死亡・休業4日以上）発生状況について

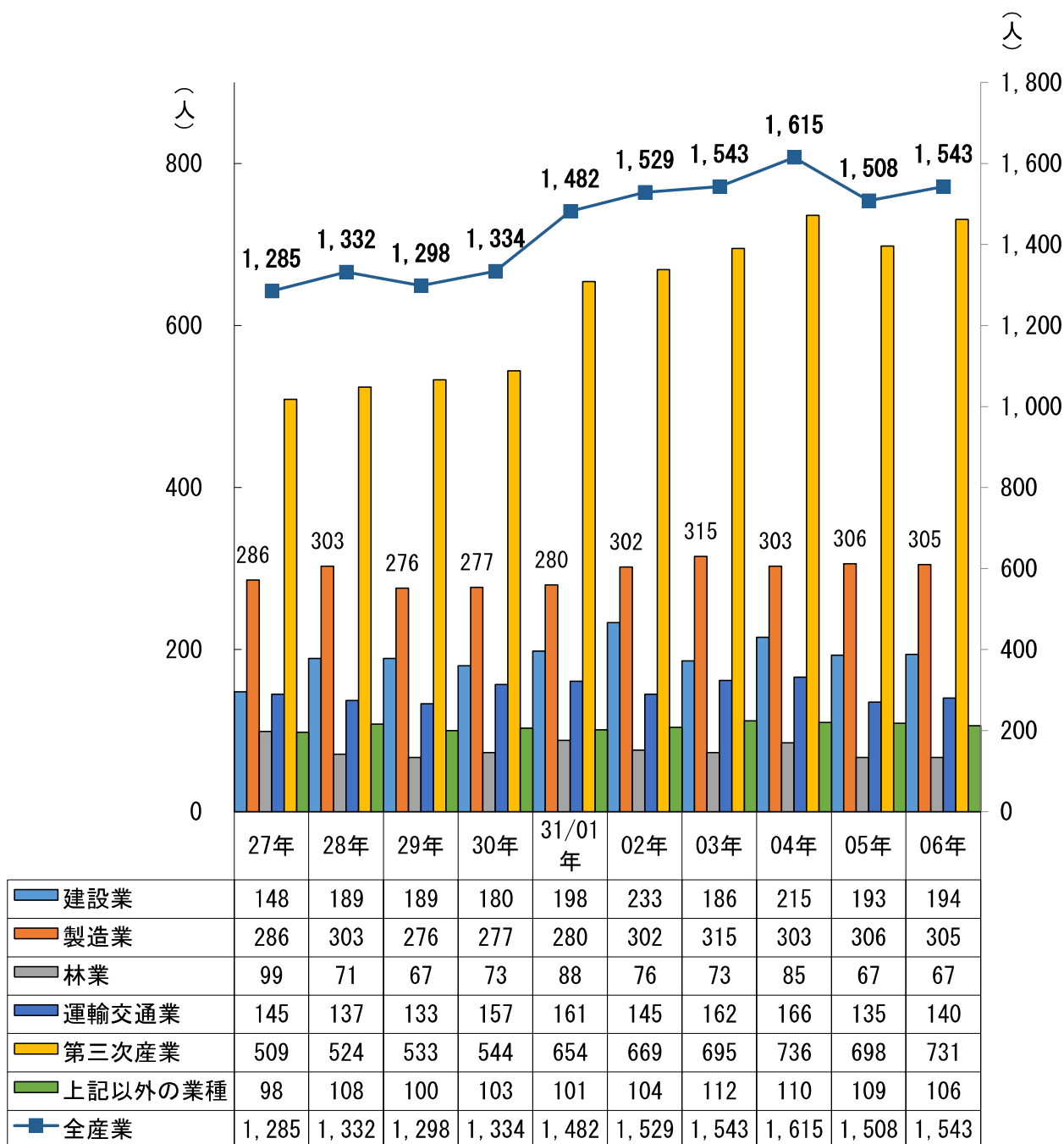
（1）死傷災害発生状況の推移

死傷者数は1,543人で、前年の1,508人から35人（2.3%）増加した。

業種別では第三次産業が731人（全体の47.4%）で最多。次いで製造業305人（19.8%）、建設業194人（12.6%）、運輸交通業140人（9.1%）、林業67人（4.3%）と続く。

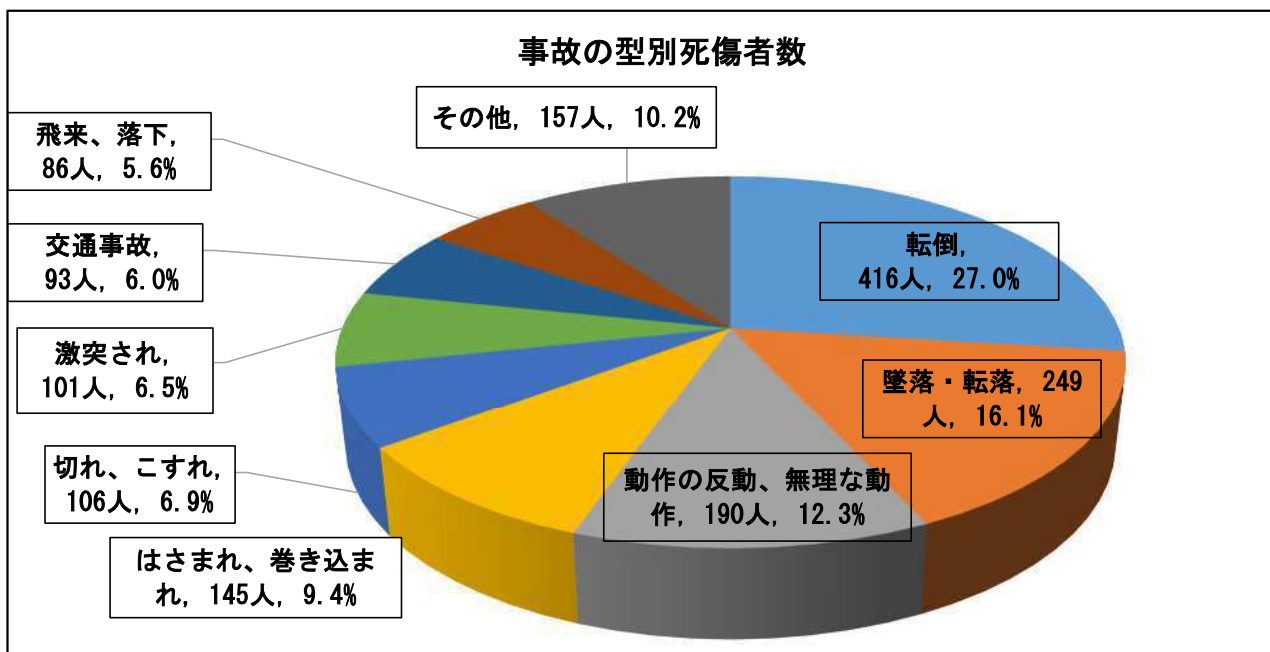
第三次産業において前年より増加（33人、4.7%）、建設業・林業・運輸交通業で微増、製造業で微減となっている。

主要産業別死傷者数（休業4日以上）



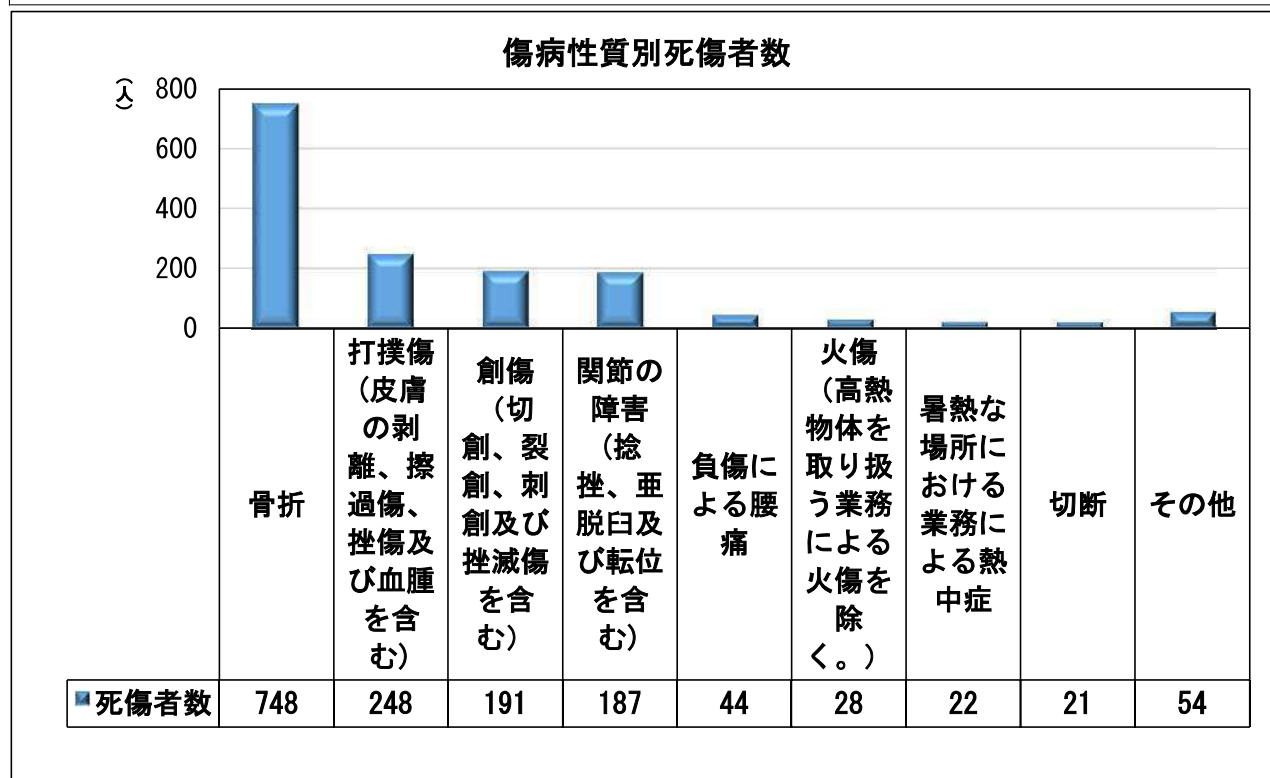
(2) 事故の型別 死傷災害発生状況（令和6年）

事故の型別は、「転倒」が416人(27.0%)で最も多く、次いで「墜落、転落」249人(16.1%)、「動作の反動、無理な動作」190人(12.3%)、「はさまれ、巻き込まれ」145人(9.4%)、「切れ、こすれ」106人(6.9%)、「激突され」101人(6.5%)の順となっている。



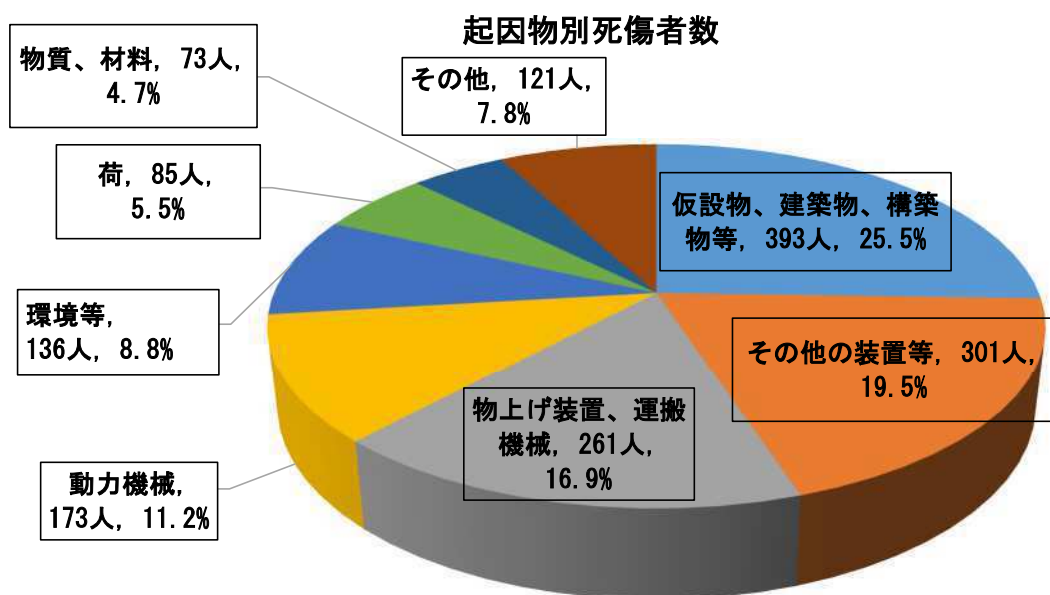
(3) 傷病性質別 死傷災害発生状況（令和6年）

傷病性質別では、「骨折」が748人(48.5%)で最も多く、全体の約半数を占めている。次いで、「打撲傷」248人(16.1%)、「創傷」191人(12.4%)と続く。



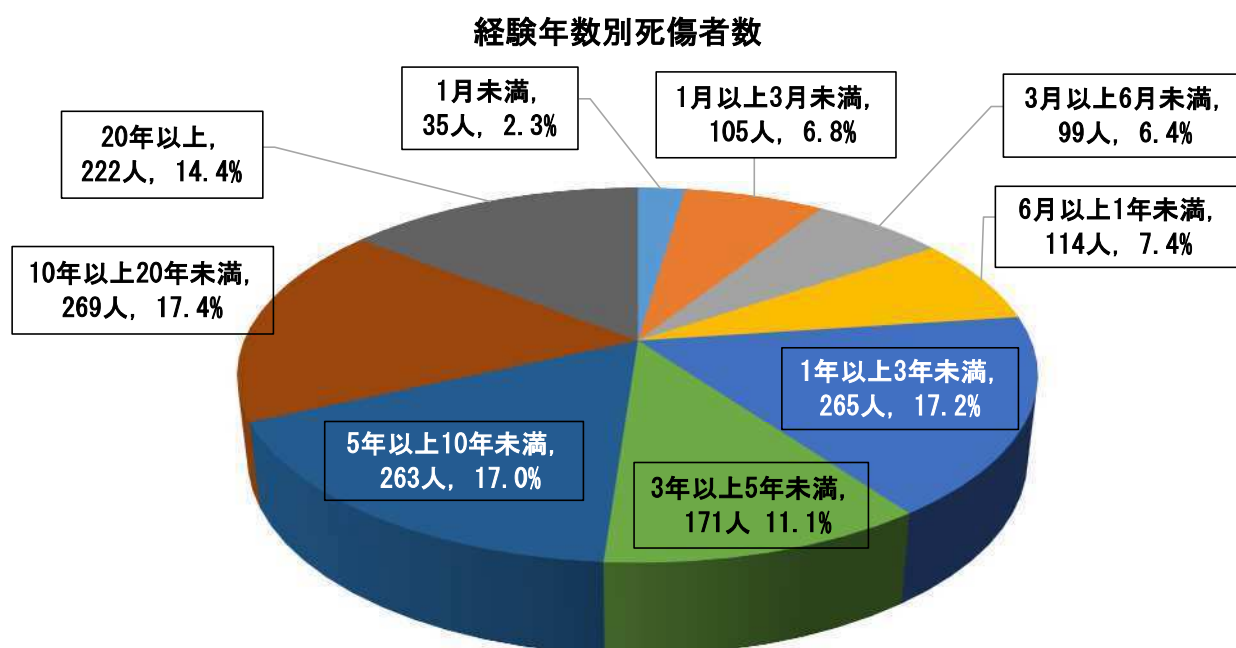
(4) 起因物別 死傷災害発生状況（令和6年）

起因物（災害をもたらす原因となった機械・設備・環境等）では、通路や作業床、歩み板等の「仮設物、建築物、構築物等」が393人（25.5%）で最も多く、次いで人力機械工具や用具等の「その他の装置」が301人（19.5%）、クレーン、トラック等の「物上げ装置、運搬機械」が261人（16.9%）、加工用機械や建設機械等の「動力機械」が173人（11.2%）、「環境等」136人（8.8%）、「荷」85人（5.5%）、「物質、材料」73人（4.7%）の順となっている。



(5) 経験期間別 死傷災害発生状況（令和6年）

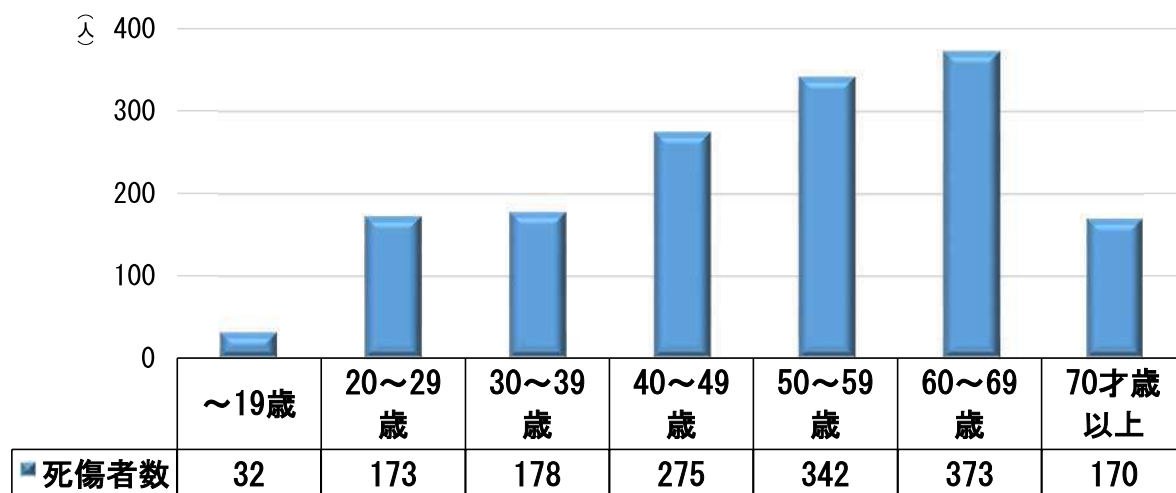
経験期間5年以上の労働者による災害が全体のほぼ半数（48.9%）を占めている。経験期間1年未満の労働者による災害は全体の22.9%となっている。



(6) 年齢層別 死傷災害発生状況 (令和6年)

年齢層別では「60才以上」が543人で全体の35.2%を占めている。

年齢層別別死傷者数

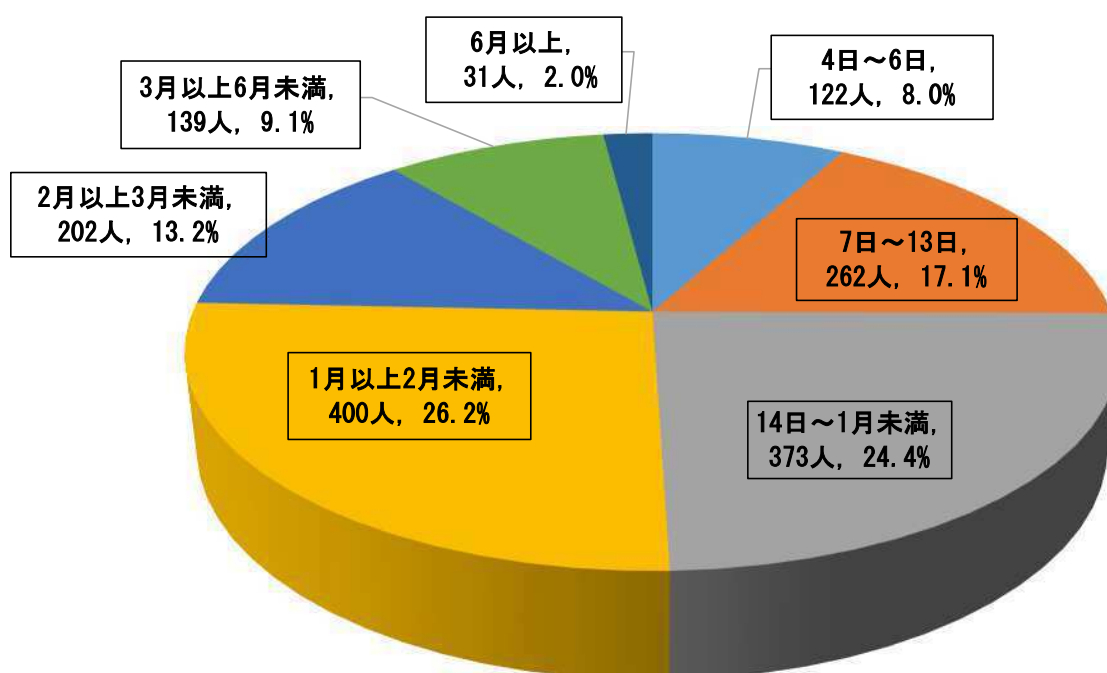


(7) 休業見込期間別 労働災害発生状況 (令和6年)

休業災害（死亡を除く休業4日以上災害）1,529人について、休業見込期間別に比較したところ、「1月以上2月未満」が400人（26.2%）で最も多い。

また、休業見込期間が1月以上の災害件数は772人で、全体の半数以上を占めている。

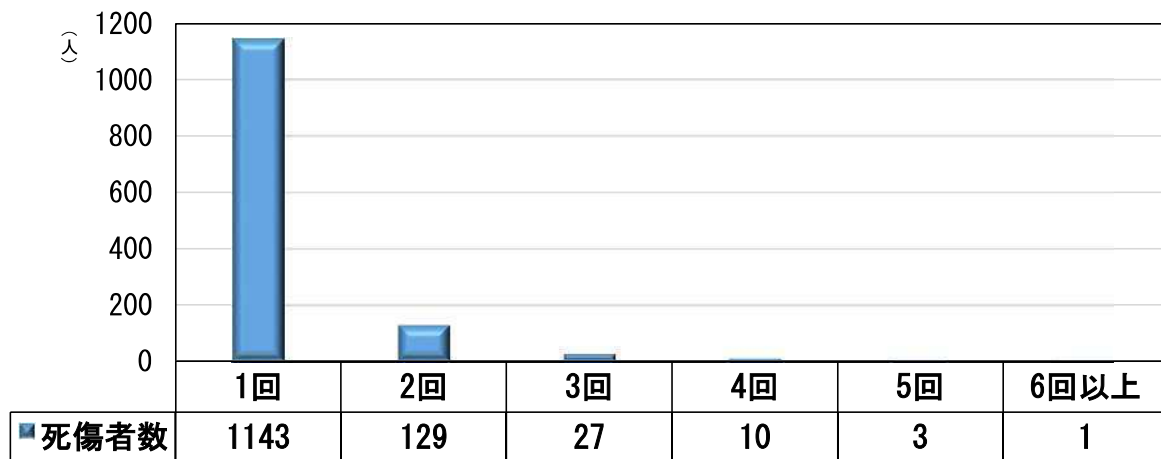
休業見込期間別死傷者数



(8) 事故発生回数別 死傷災害発生状況（令和6年）

令和6年に県内で発生した死傷災害1,543が発生した事業場数は1,313あり、1回発生の実業場は1,143（87.1%）で、2回以上発生した事業場は170（12.9%）であった。死傷災害が最も多発した事業場では1年間に6回発生している。

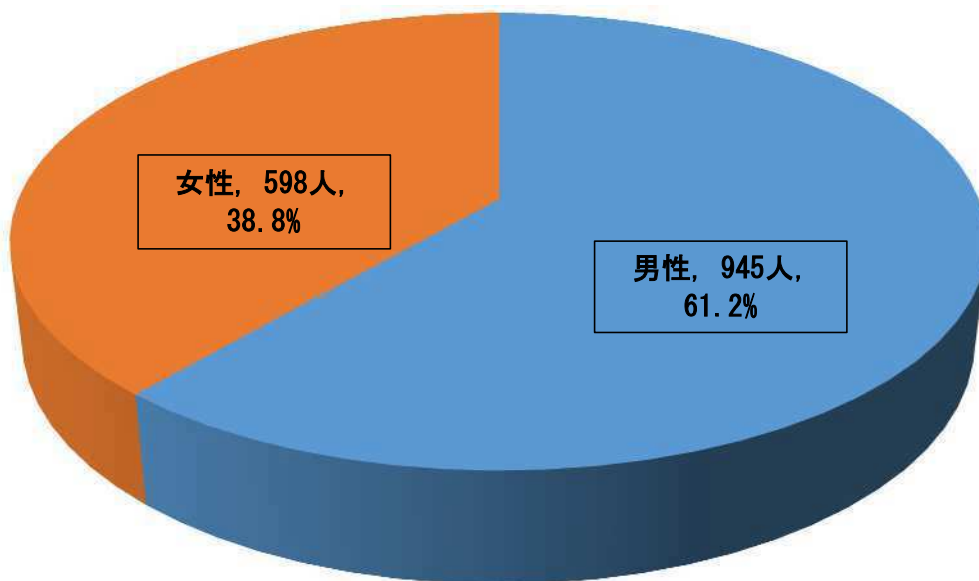
災害発生回数別事業場数



(9) 男女別 死傷災害発生状況（令和6年）

男女別では、男性の死傷者数が全体の61.2%を占めている。

男女別死傷者数



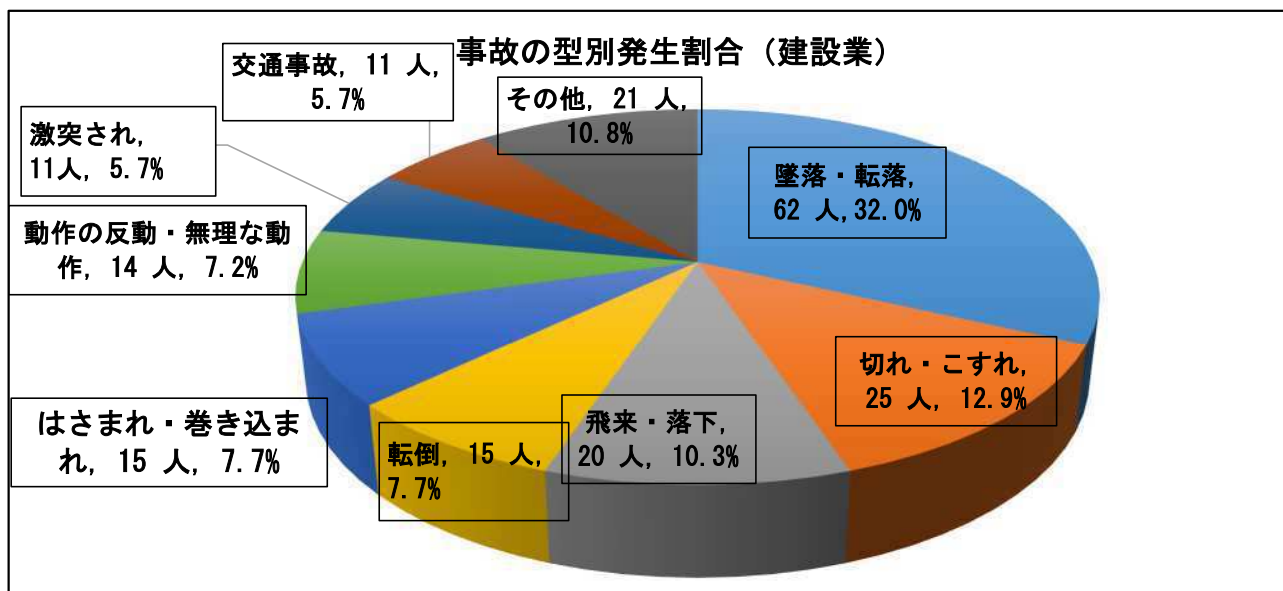
3. 業種別の労働災害の特徴について

(1) 建設業の労働災害発生状況(令和6年)

死亡者数は3人で、前年比2人増加。

死傷者数は194人で、前年比1人(0.5%)増加。

事故の型別では、「墜落・転落」が最も多く32.0%を占めている。

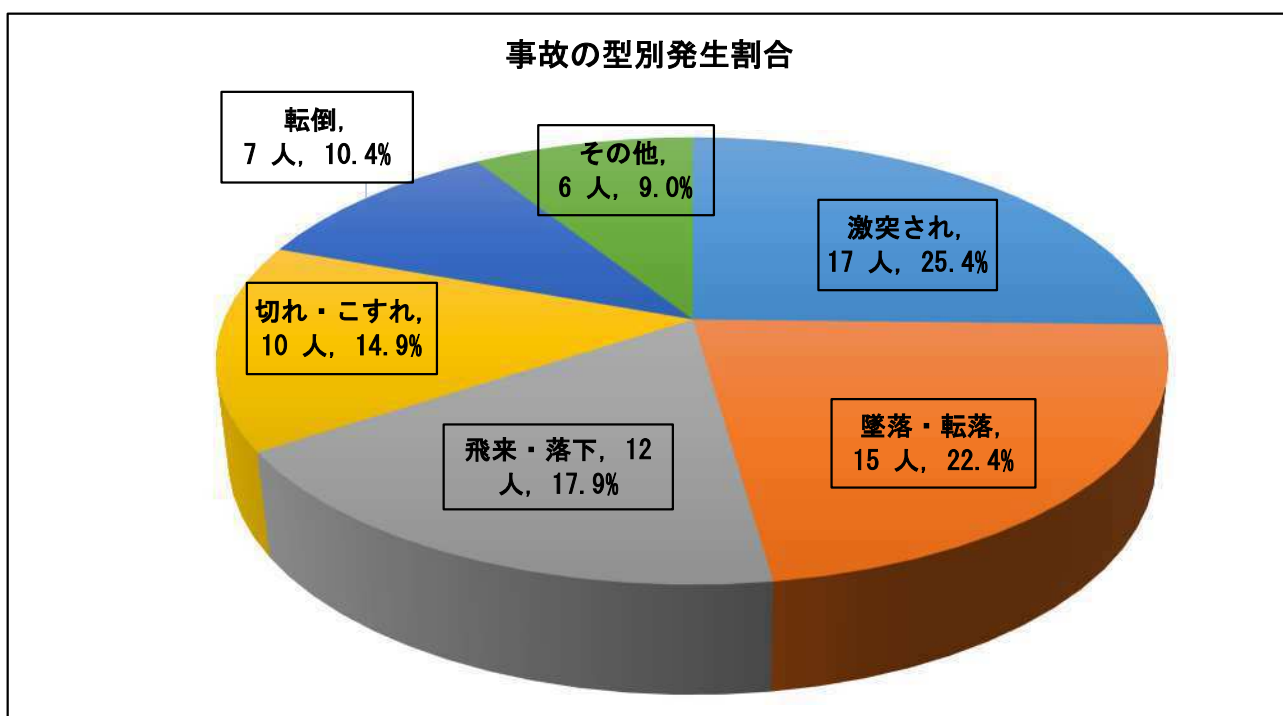


(2) 林業の労働災害発生状況(令和6年)

死亡者数は4人で、前年比1人増加。

死傷者数は67人で、前年と同数。

事故の型別では、「激突され」が最も多く、25.4%を占めている。



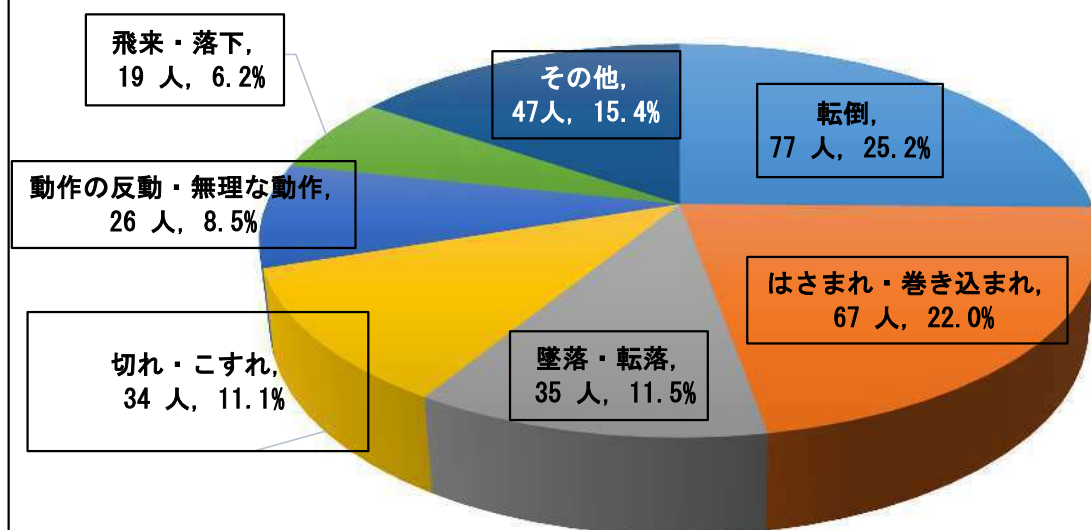
(3) 製造業の労働災害発生状況（令和6年）

死亡者数は1人で、前年比2人減少。

死傷者数は、305人で、前年比で1人（0.3%）減少。

事故の型別では、「転倒」が最も多く25.2%を占めている。

事故の型別発生割合（製造業）



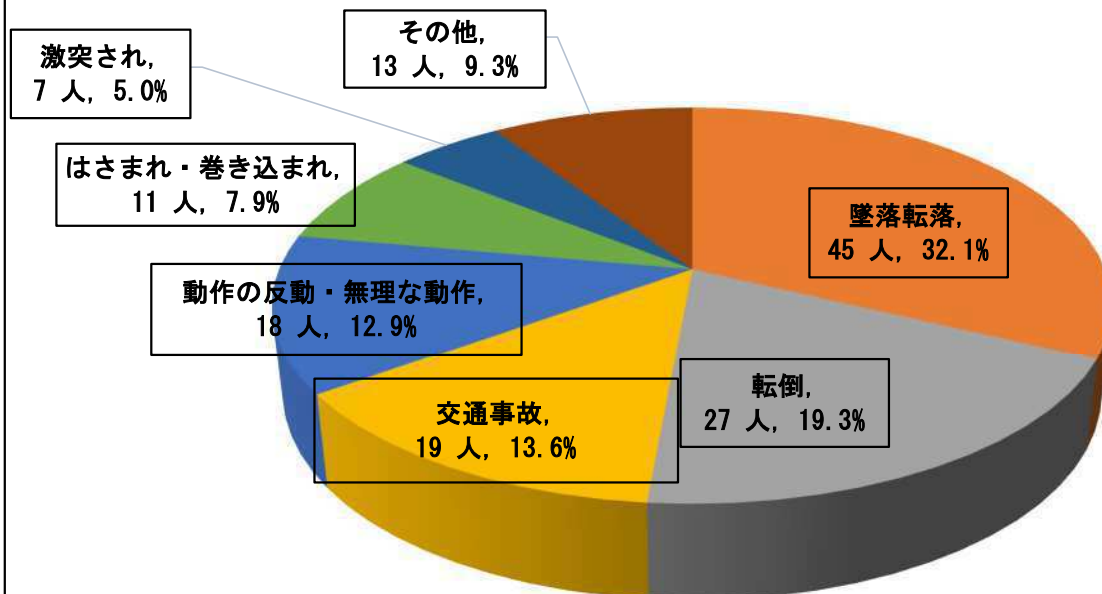
(4) 運輸交通業の労働災害発生状況（令和6年）

死亡者数は2人で、前年比2人増加。

死傷者数は140人で、前年比で5人（3.7%）増加。

事故の型別では、「墜落・転落」が32.1%を占めている。

事故の型別発生割合（運輸・交通業）



(5) 第三次産業の労働災害発生状況（令和6年）

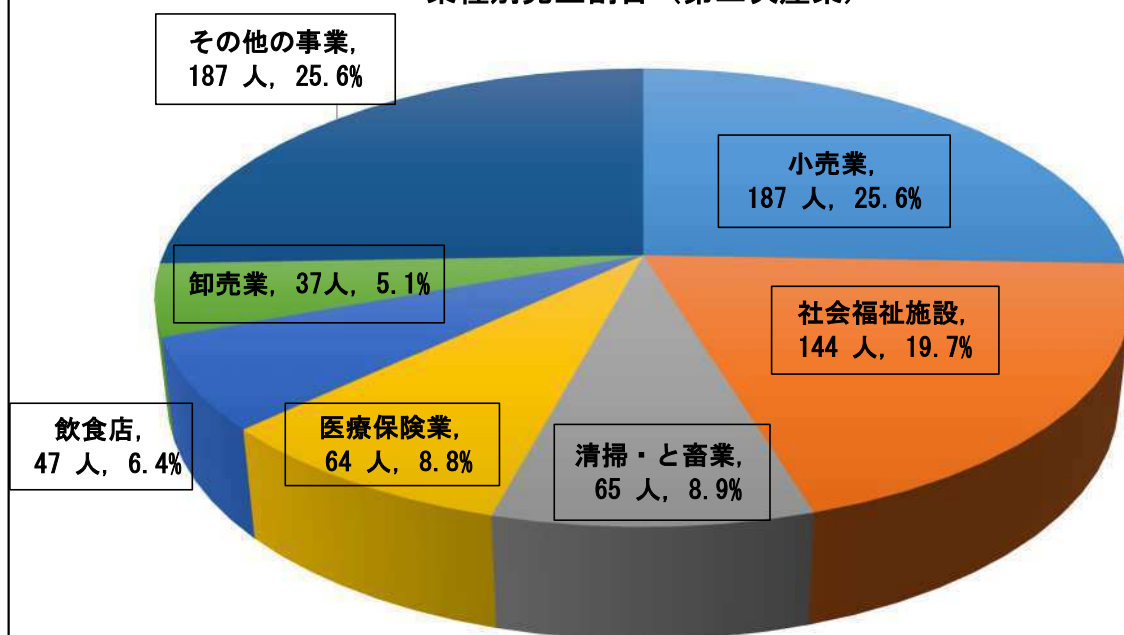
死亡者数は3人で、前年比2人の減少。

内訳は、商業（小売業：新聞販売業）1人、その他の事業（その他）2人となっている。

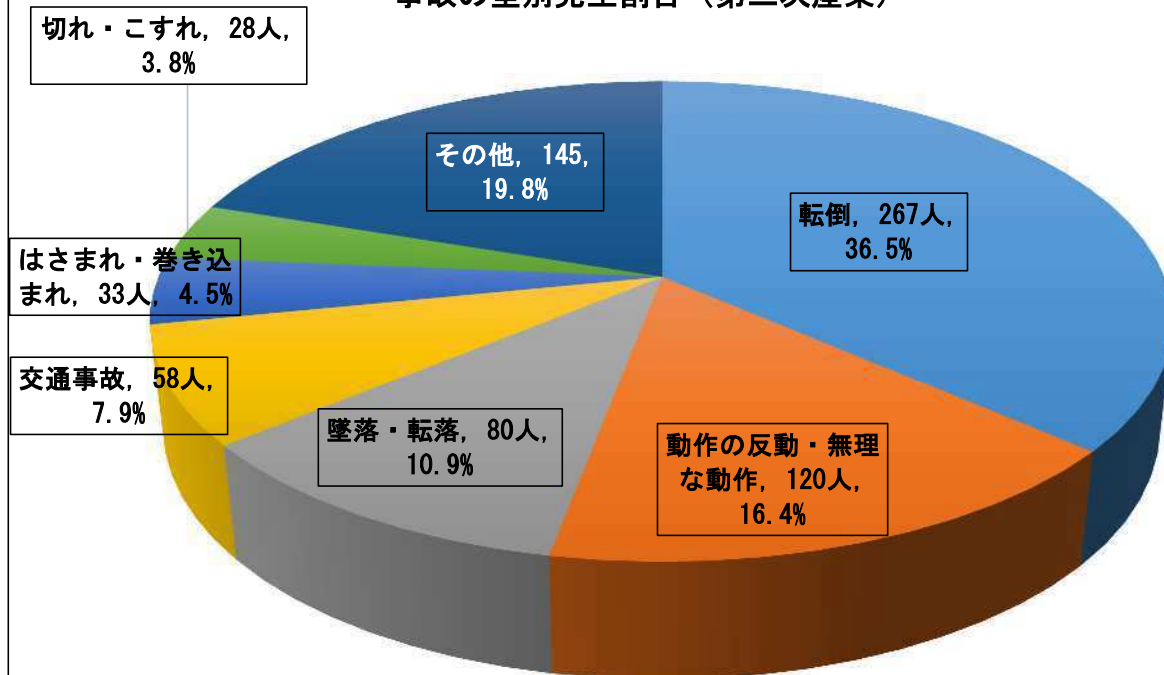
死傷者数は731人で、前年比で33人（4.7%）増加。

事故の型別では、「転倒」及び「動作の反動・無理な動作」の労働者の作業行動に起因する労働災害が5割を超える。

業種別発生割合（第三次産業）



事故の型別発生割合（第三次産業）



4. 最近の労働災害の特徴について

(1) 行動災害の増加

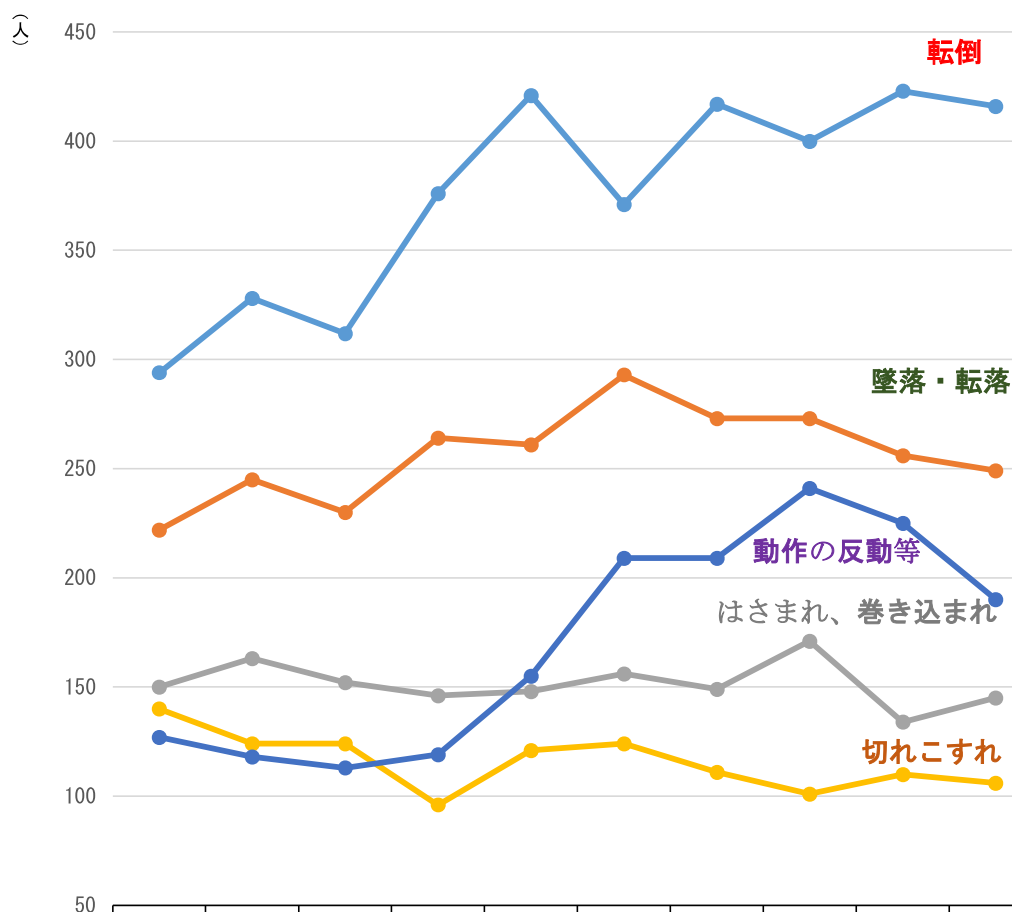
過去10年間に県内（全業種）で発生した死傷災害を事故の型別で分類した推移を見ると「転倒」が常に最多で、かつ増加傾向にあり、令和6年の発生数は416人で全体の27.0%を占める。

また、「転倒」による死傷者数は、令和2年に減少したものの、令和3年以降、年間400人以上で推移している。

「動作の反動、無理な動作」が平成30年以降増加傾向にあったが、令和5年以降減少に転じている。

「墜落・転落」は、近年、減少傾向にある。

死傷災害発生件数の推移（平成27年～令和6年）



	27年	28年	29年	30年	31・01年	02年	03年	04年	05年	06年
● 転倒	294	328	312	376	421	371	417	400	423	416
● 墜落・転落	222	245	230	264	261	293	273	273	256	249
● はさまれ、巻き込まれ	150	163	152	146	148	156	149	171	134	145
● 切れこすれ	140	124	124	96	121	124	111	101	110	106
● 動作の反動等	127	118	113	119	155	209	209	241	225	190

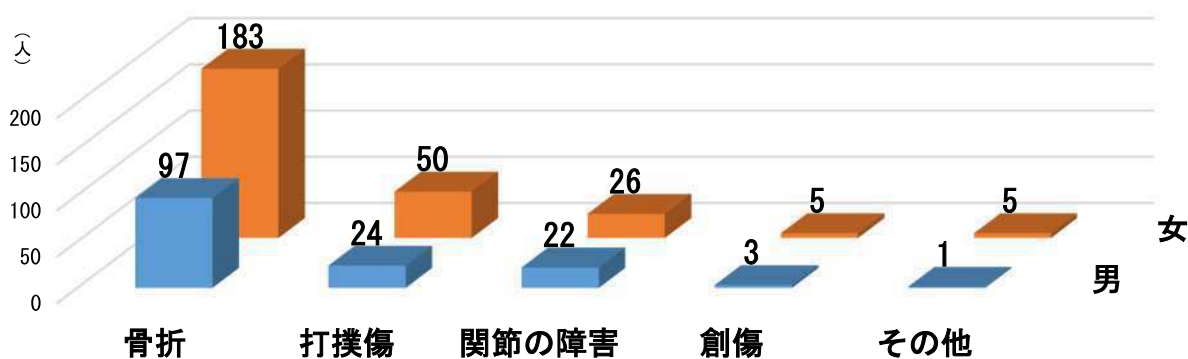
（１）行動災害の増加 （令和６年 転倒災害）

転倒災害による傷病性質は「骨折」が280人（男：97人、女：183人）で最も多く、全体の67.3%を占めている。

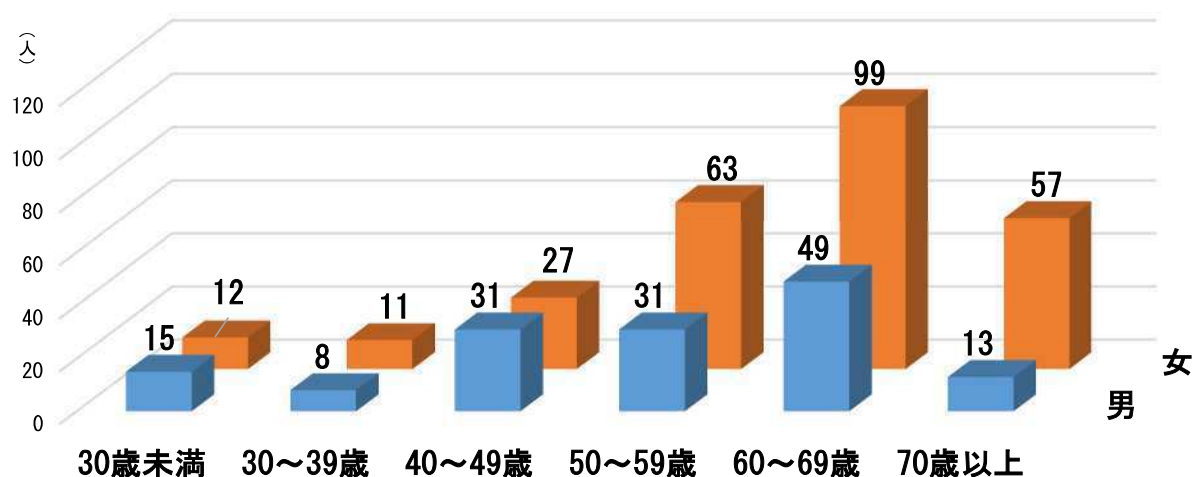
高年齢になるほど転倒災害が多く発生し、特に女性の高年齢労働者に多発している。

転倒災害416人のうち、60歳以上の男性が占める割合は14.9%（62人）であるのに対し、60歳以上の女性が占める割合は37.5%（156人）となっている。

傷病性質別発生件数（転倒災害：416人）



年齢別発生件数（転倒災害：416人）

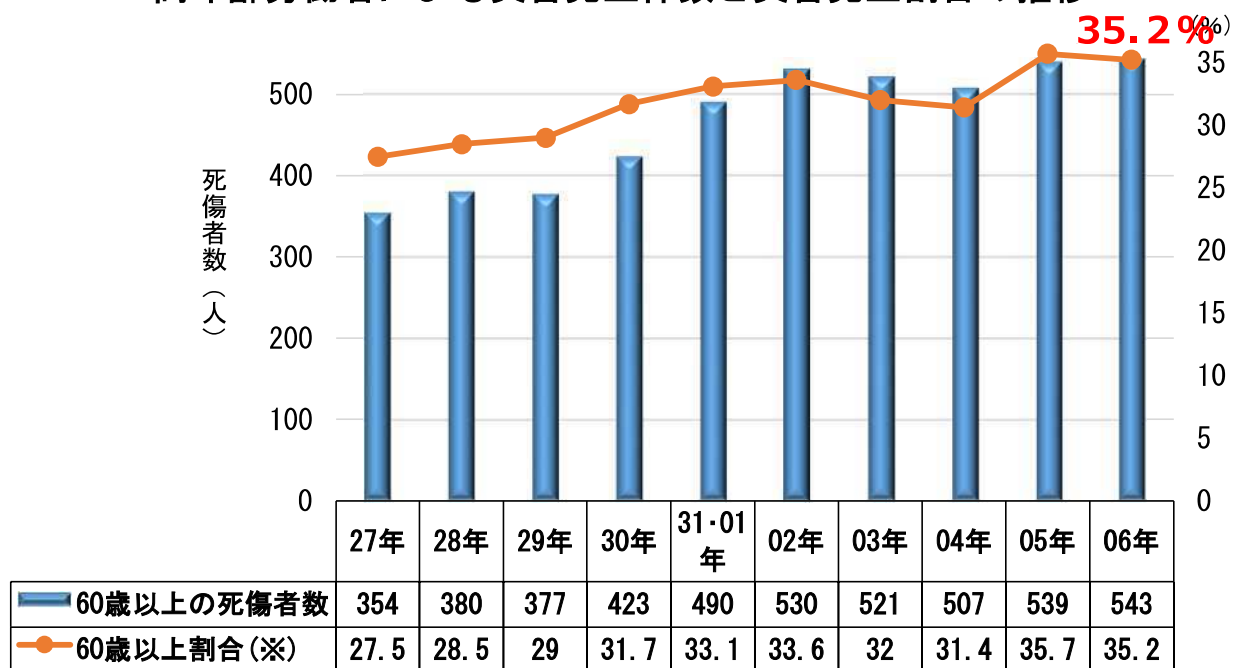


(2) 高齢労働者の労働災害の増加

死傷災害全体の中で高齢労働者（60歳以上）の死傷災害が占める割合は、平成30年以降、全死傷者数の3割を超え、高止まりが続いている。

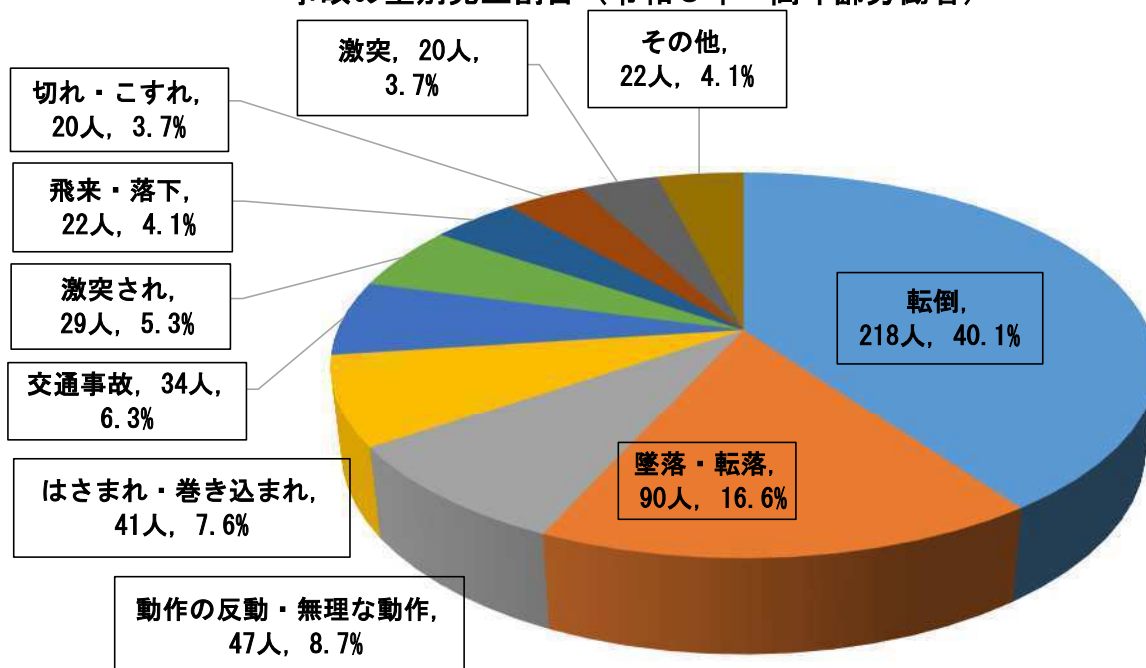
令和6年に発生した高齢労働者による死傷災害543人について、事故の型別に分類したところ、転倒が最も多く全体の4割を占めている。

高齢労働者による災害発生件数と災害発生割合の推移



(※) 災害全体の中で被災者が60歳以上の災害が占める割合(%)

事故の型別発生割合（令和6年 高齢労働者）



５．外国人労働者の災害発生状況

（１）外国人労働者の労働災害発生状況の推移

平成 30 年以降に県内（全業種）で発生した外国人労働者の労働災害は増加傾向にあり、令和 6 年の死傷者数は、前年比 4 人（10%）減となった。

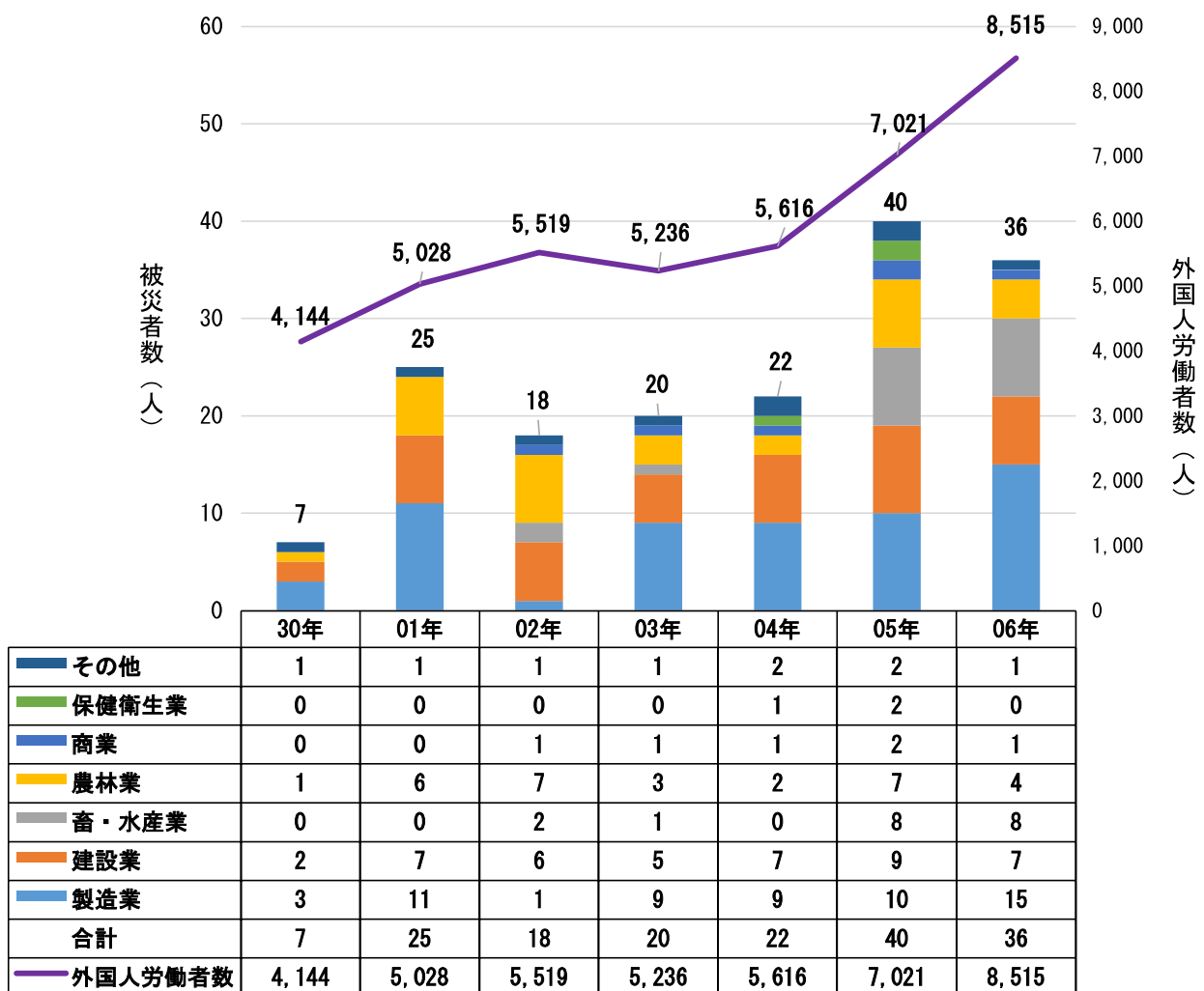
被災者を事故の型別で分類したところ、「はさまれ・巻き込まれ」が最も多く全体の 30%を占めている。

また、業種別では、製造業が 15 人（40.1%）で最も多く、次いで畜・水産業 8 人（22.2%）建設業 7 人（19.4%）の順となっている。

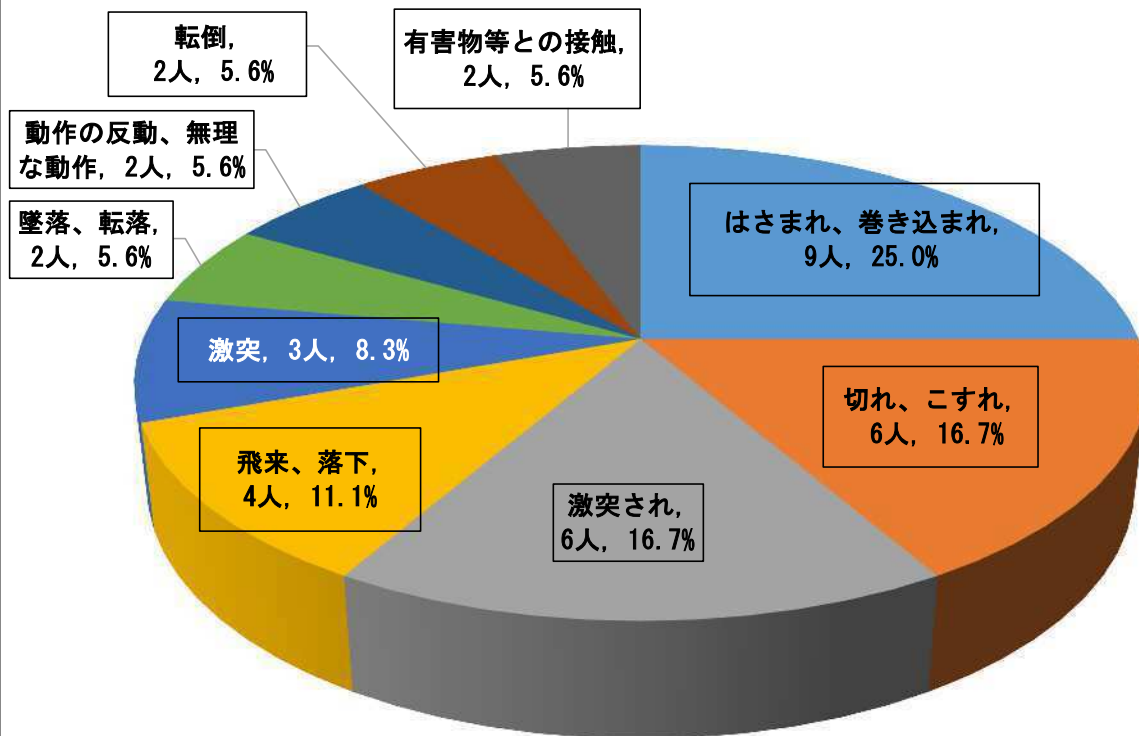
在留資格別では、技能実習が 22 人（61.1%）で最も多く、次いで特定技能 7 人（19.4%）、永住者 3 人（8.3%）、の順となっている。

国籍別では、インドネシアが 15 人（41.7%）で最も多く、次いでベトナム 12 人（33.3%）、ミャンマー及びカンボジアが各 2 人（5.6%）の順となっている。

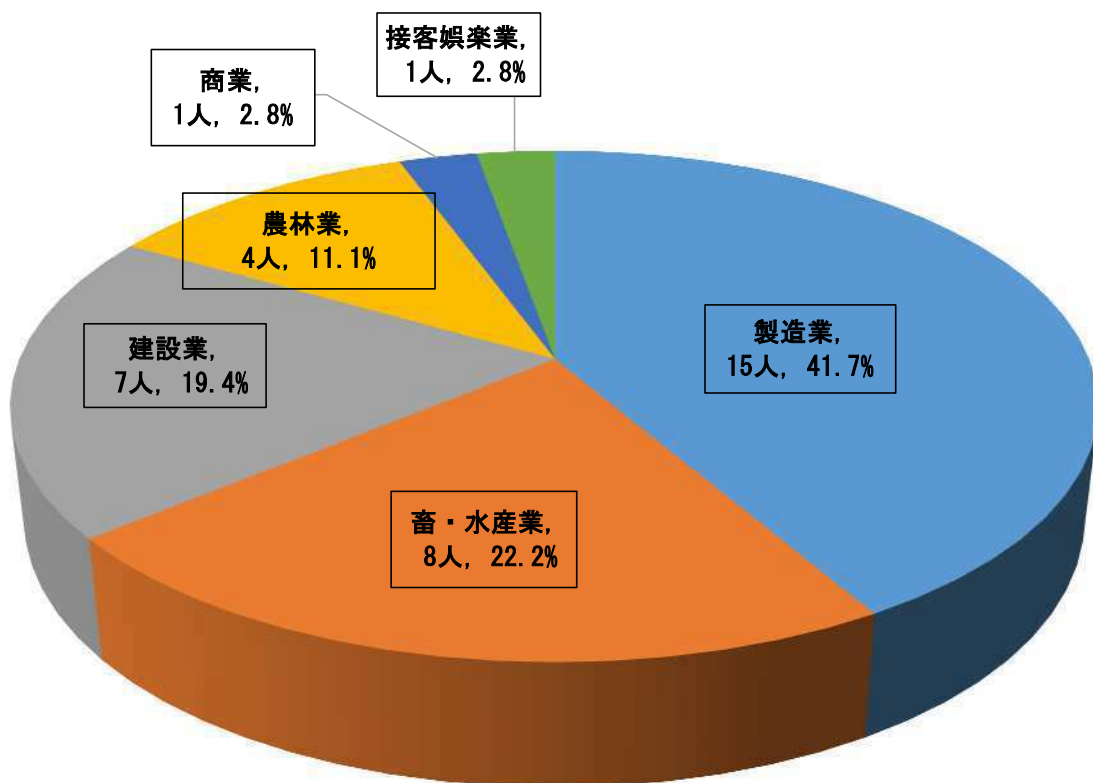
外国人労働数及び死傷者数の推移



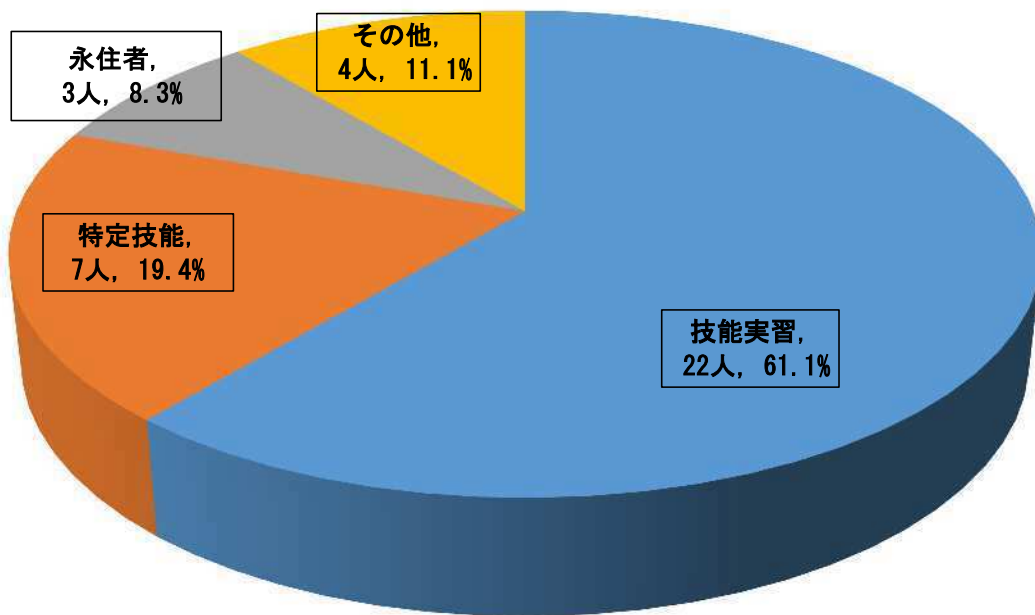
事故の型別発生件数（令和6年 外国人労働者）



業種別災害発生件数（令和6年 外国人労働者）



在留資格別被災者数（令和6年 外国人労働者）



国籍別被災者数（令和6年 外国人労働者）

